

小林健
心

(小林 健 豊商事常務)

私の好きな一文字

先物協会ニュース

JCFIA マンスリー

JCFIA
JAPAN COMMODITY FUTURES
INDUSTRY ASSOCIATION

発行 日本商品先物振興協会
〒103-0016
東京都中央区日本橋小網町9-9
TEL(03)3664-5731 FAX(03)3664-5733

<http://www.jcfia.gr.jp/>

先物協会

相次いで要望打ち出す 税制・制度改正・年末立会



今年末に委託手数料が完全自由化され、来年5月には改正商法が施行される。大きな転機を迎える中で、先物協会は9月14日の理事会で、平成17年度税制要望、制度改正に係る要望事項、年末立会に係る要望の方向について了承し、さつそく月末から要望書提出など関係方面への働きかけを始めた。

金融所得一元化に商品取引を対象に

平成17年度税制改正に関する要望は、自民党税制調査会などに(社)全国商品取引所連合会と連名で提出された。先物協会・全商連関連の要望事項は以下の2つ。

1. 商品先物取引(オプション取引を含む)の決済差損益について、金融所得一元化の対象とし、その税率を同一とするとともに、損益通算及び損失繰越を可能とする措置を講じること。
2. 商品ファンド(信託型・匿名組合型・海外リミテッド・パートナーシップ型)

最近、私は「行動ファイナンス」と呼ばれる理論に魅せられている。「投資家はなぜ損切りできないのか?」この疑問に対しても、従来の伝統的な経済学では明確な回答が出せなかつた。近年、経済学に心理学的な要素を取り入れて、「人間は必ずしも合理的な行動を取るとは限らない」というアプローチから市場動向を考察するという観点からも、まさに興味の種が尽きない分野である。事例を2つ挙げてみたい。

FUTURES PLAZA

興味尽きない投資家心理

三晃商事株式会社



法務調査資料室次長 柴田慎一

ある相場の値上がり材料に対する買建玉で利益になつている投資家は「上がればいいのか?」この疑問に対しても、従来の伝統的な経済学では明確な回答が出せなかつた。近年、経済学に心理学的な要素を取り入れて、「人間は必ずしも合理的な行動を取るとは限らない」というアプローチから市場動向を解析するという観点からも、まさに興味の種が尽きない分野である。事例を2つ挙げてみたい。

「市場管理委員長会議」の設置を

平成15年度税制改正によつて、15年1月から商品先物取引によって生じた個人株式等の譲渡に係る所得と同様、税率が20%(国税

15%、地方税5%)に引き下げられ、損失についても

改正商取法の施行に伴つて設立される清算機関についても同様に翌年以降3年間

1. 清算機関が設立されることは、次の2点を主務省、全商連に要望した。

2. 市場管理委員長で構成する「市場管理委員長会議」を設置すること。

証拠金については従来、上場商品の特性を勘案して各商品取引所の市場管理委員会が決定し、臨時増証拠金の預託額割合、その返還時期などを取引所によって異なつていて。

そこで、今後は取引証拠金の考え方、臨時増定期増・割増証拠金のあり方などと証拠金全般について共通

12月30日を大納会に

商品先物市場の大納会は現行制度では、12月28日とし、立会も同日までとなつていてが、これを来年末から12月30日までとするよう全商連を通じて各商品取引所に要望した。

これは、海外商品先物市場や証券・金融市場が12月30日まで開かれ、立会が行われるから買う」ならともかく「自分が買っているから値上がり期待をする」ようでは本末転倒であろう。

「プロフィール」1987年三晃商事(株)入社。大阪、名古屋支店営業部課長、本社管理部課長を経て、現在同社法務調査資料室次長。著書に「商品先物取引への偏見を質す」岩本雅郎弁護士書面への反論

」(光陽企画、2002年)

われているので、価格と市場の連動性を保持するため必要としている。

今年8月に実施した「大納会日の縛りに関するアンケート調査」の集計結果(2面に詳細を掲載)を踏まえて取り組みの方向を決

熱心に質疑応答

先物協会・会員代表者懇談会

78社84人出席



従来は各地区で懇談会を開いていたが、問題山積のため、時間的に余裕がなく、全国の商品取引員が一堂に会する形をとつ

ての地位を確立できる」と述べ、業界全体で健全な発展に貢献するため、投資家が将来的に必要な方途を講じること。

これは、市場参加者から清算機関の株主に商品取引員が将来的に必要な方途を講じること。

井上馨伯が「投機亡國論」を唱えた。曰く「今日の国民は恐るべき株式の大狂熱に巻き込まれておる。五千万の国民はまるで投機師だ。経済界の危機は思うに今日で

ある。もし、今日の趨勢が進一步悪化すれば、これが馬鹿馬鹿しくなること」が馬鹿馬鹿しくなること。誰も正業に眞面目に従事することは不可能である。しかし、国民はまるで投機師だ。経済界の危機は思ふに今日で

先物春秋

中江兆民が遺著「一年有半」の中で大隈重信を評して「野にあって相場師に成しただろうに……と惜しい」。

害を怖れて、これを圧服せんとする如きは、却つて取引所の利益を無にするようなもの」と投機を庇い続けた。大隈は自ら相場を実践し、大儲けしたともいわれ

(泉)